

【公共経済】 佐々木 創 ゼミ (2018 年度在外研究のため募集停止中)



演習テーマ： 公共政策・環境政策の観点から国際的な経済社会問題を解明する

【ゼミの目標】

本ゼミの目標は以下の3つです。

- 1) 国際公共政策や国際環境政策の分析枠組みについて経済学を中心に、政策学、行政学、法学など学際的に理解をすること
- 2) 多種多様な問題領域に対する政策決定過程で活用されている経済学の有効性と課題について体系的に理解すること
- 3) 現在の国際公共・環境問題について、自らの考えを論理的に表現できるようになること

【国際公共政策？国際環境政策？】

国際公共政策？国際環境政策？とは何を学ぶのでしょうか？ 例えば、あなたが今この画面を見るために使っているパソコン（スマホかもしれませんが・・・）に内蔵されているハードディスクのサプライチェーンから見てみましょう。

ハードディスクにはレアメタルの一種であるネオジムを利用した磁石が使われており、ネオジムは中国の「環境政策」の一環で輸出制限されていた鉱種でしたがWTO違反と判断されました（「国際通商政策」）。

パソコンやスマホなどIT機器に使われているネオジム磁石は日本企業が世界シェアの大半を占めており、ネオジム磁石は省エネに多大な効果があるなど「産業政策」や「省エネ政策」にも多大な影響を及ぼしています。ところで使用済パソコンはどうなるのでしょうか？ 国内でリサイクルされることもあれば、海外でリユース・リサイクルされることもあり、「廃棄物・リサイクル政策」も国際的な視点で考える必要がありますし、国際的なリサイクルは「貧困・開発・援助」と関係しています。

このようにパソコン一つを例にとっても、様々な経済問題が内包されており、私たちの生活はグローバル社会と密接な関係があります。換言すれば「グローバル社会に無関心に過ごすことは可能でも、無関係で過ごすことは不可能」です。そんなグローバル社会が抱える経済社会問題を公共政策・環境政策の観点から検討することは、ゼミ生諸君の将来に必ず役立つものと思っています。

【活動内容】

ゼミの活動内容は「ゼミ生が決める」。基本はゼミ生の自主性と積極性を尊重して、教員はゼミ生が研究したいことをサポートすることに徹しています。国外の課題をゼミ生が設定すれば、当然国外で現地調査を実施します。

ただ、2年生後期の前半だけは、研究や調査の基礎を身に付けるためにグループワークで輪読を行います（テキストは毎年指定）。その後「3年生の一年間を通じて何を研究したいか？」について2年生後期の後半で課題を設定し、PBL手法 (Project Based Learning) を用いて、3年生の一年間を通じて研究を行います。

国際公共政策にしても国際環境政策にしても、実社会の課題を把握し、改善策を検討する学問です。したがって、理論と実践を重視した研究が必要で、夏季・春季休業中に企業等へのヒアリングやフィールドワークを実施します。また、これらを通じて、社会人として必要となるビジネスマナーも同時に習得します。ゲスト講師やヒアリングで社会人と接する機会も多いゼミです。

グループワークが基本となるためゼミの雰囲気の良いことや、2~4年生のゼミを木曜3~5限に連続して開講しているため、上級生との交流も多いことも特徴です（【写真】は2016度実施した海外調査の様子）。2016年度第5期生は、タイ・バンコクの渋滞緩和策に関する論文を執筆し、学内外のプレゼン大会で優勝、中央大学学員会会長賞を受賞しました。

【佐々木ってどんな教員？】

2012年度に着任で、3年生専門科目を担当し比較的マイナーな(?) 教員の経歴を述べておきます。2006年に北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程を単位取得退学した後、日本学術振興会特別研究員 (PD)、タイ・チュラロンコン大学客員研究員、非常勤講師を経て、大手シンクタンクで調査研究業務に従事しておりました。

シンクタンクでは、日本のリサイクル政策やアジア諸国との政策対話、日系企業の環境ビジネス振興などを中心に、年間3ヶ月ほど中国、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシアなどの国々を飛び回る生活をしながら、いくつかの政策立案に関与し、民間企業のアジアへの進出などを実現することができ、これらの経験を再度大学で研究しようと考えたところ、本学で教鞭をとる機会に恵まれた次第です。